

No.500

2016.5.27

KINZOKU DANCHI NEWS Since1974

金属団地ニュース

創刊500号記念





ごあいさつ

金属団地ニュース500号を迎えて

岐阜県金属工業団地協同組合
理事長 今井 哲夫



今回、『金属団地ニュース』が500号を迎えるにあたり一言ご挨拶申し上げます。『金属団地ニュース』は、創刊号が発刊されてから、今まで約41年半という長きにわたり毎月、毎月、皆様方に愛読して戴きましたが、この5月号で500号となり、この間、沢山の原稿を投稿して下さった組合員の皆さんや関係者の皆さんをはじめ、『金属団地ニュース』の編集に関与されてこられました歴代の編集委員の皆さん方に対し敬意を

表したいと思います。くしくも金属団地も今年創立55周年を迎え、500号記念誌が5月号として発刊され、5という大変縁起の良い数字が並びまして、『金属団地ニュースも金属団地も』今後、益々、栄えていくような予感がします。

昭和42年に、新聞紙4分の1大の縦書きのガリ版刷りの新聞が機関誌のはじまり、その後、会報となり昭和48年8月号で途絶えましたが、その間6年間続きました。その後1年間の空白を経て機関誌としての現在のような『金属団地ニュース』が昭和49年9月10日に創刊されました。創刊号が発刊された昭和49年はオイルショックの翌年にあたり、世の中、大変不況に見舞われていて金属団地も例外ではありませんでした。このような不況下に組合は組合員に対し、いったい何をすべきか、どのように対処すべきかを模索した結果が、『金属団地ニュース』の始まりと聞いています。先ず組合活動を活発にするために、あらゆる情報を組合員に通達し、この経済不況を乗り切るべく、組合と組合員とのつながりを密にするパイプ役として『金属団地ニュース』が企画されたわけです。私が理事長に就任したのが平成16年5月28日で12年が経過し、金属団地ニュースが356号の時ですので、早いものでそれから144号が追加されました。その間でも色々な企画が生まれては消えて行きましたが、その変遷はこの500号記念誌の中のページに紹介されていると聞きました。今後も色々な企画がなされ、より一層楽しい機関誌になって行く事を期待しています。

金属団地ニュースの歴代の編集委員長さん、編集委員の皆さん、長い間御苦労さまでした。また、『漫画コーナー』や『ふいご』に投稿して戴いた組合員の皆さん、有難うございました。これからもよろしくお願いします。金属団地ニュースは金属団地の歴史です。時代とともに『金属団地ニュースも金属団地も』変化し続けます。その使命を担う機関誌として、各務原市をリードする企業集団として、今後も、継続、成長、発展していかなければならないと考えております。ともにさらにパワーアップして、600号いや1000号、そして創立100周年200周年と続きます事を心より願っております。

最後に、この歴史ある『金属団地ニュース』の発刊については、組合員の皆さん、関係機関の皆さんのご協力を得ながら、更に内容の充実や金属団地のPRにつとめ、金属団地の発展に貢献できるよう努力してまいりたいと思いますので、一層のご協力、ご支援をお願いし、挨拶とさせていただきます。



ご祝辞

「金属団地ニュース」500号発行を記念して



各務原市長 浅野 健司

金属団地ニュース創刊500号、誠におめでとうございます。昭和49年9月の創刊から41年間、一度も中断することなく発行してこられたとのこと。これまで発行業務に携わられました皆様に対し、心からの敬意を表します。

昭和36年に国が打ちだした中小企業工場集団化事業の指定第1号として、全国に誕生した10の工場団地。岐阜県金属工業団地は、その一つであり、最も歴史ある工業団地の一つであるといえます。

各務原市は、岐阜県下随一のものづくりのまちです。航空機や自動車などの輸送用機械器具をはじめとし、化学工業、金属、プラスチックなど、多種多様な業種が集まり、11年連続して、県下トップの製造品出荷額等を誇っています。そこには、高い技術力と、強い結束力を兼ね備えた岐阜県金属工業団地の皆様の存在が不可欠です。

各務原市は現在、目指す将来都市像を「笑顔があふれる元気なまち」として、その実現へ向け、歩みを進めております。皆様の生み出す「活力」は、まちを豊かにし、住む人を元気にします。本市を支える産業のさらなる発展のため、相互連携を図りながら、次世代産業の育成や強化にも努めていきたいと思っております。

発足から今日まで、50年以上にわたる長い年月において、日本の経済は変動を繰り返し、また、困難な状況をも経験してきました。そのような状況下を、「協同と調和」の精神のもと、技術力の向上と経営努力によって生き抜いてこられた皆様には、今後も各務原市を支える原動力として、よりいっそうご活躍いただきますことをご期待申し上げます。

最後になりましたが、岐阜県金属工業団地協同組合の今後益々のご発展と関係各位のますますのご活躍を祈念し、また、皆様にとって情報共有・交換の場であり、励みでもある「金属団地ニュース」が、多くの皆様に愛され末永く続きますことを心よりお祈りいたします。



ご祝辞

「金属団地ニュース」500号発行を記念して

岐阜県中小企業団体中央会
会長 辻 正



岐阜県金属工業団地協同組合の機関誌である「金属団地ニュース」が昭和49年（1974年）9月の創刊以来41年にわたり毎月発行され、このたび500号発行という記念すべき号となったことを心からお祝いとお慶びを申し上げます。

組合の機関誌は、タイムリーで正確な情報を同時に共有することにより、組合員同士が相互に理解し合い、連帯感を高め、円滑なコミュニケーションを図ることのできる重要な広報媒体であります。

金属団地ニュースでは、組合員企業の最新の活動内容、次世代を担う青年部の活動を記した「青年部コーナー」や「健康コーナー」など多岐に渡るカテゴリーにより充実した読み応えのある構成となっており、今後も組合の「顔」としてその機能を十分に発揮されていくものと思います。

特に、金属団地ニュースの『ふいご』欄では、ペンネームを用いた組合員により、時の話題、巷の話、ニュース等の論評、風流談、旅行記などの情報を組合員一人一人が自由なテーマで寄稿することにより、組合員や関連する企業の貴重な情報が収集でき、読みごたえのある内容となっております。

この「金属団地ニュース」は、組合員の機関誌としての役割を果たしてきたと同時に、組合の歴史を記録してきたものとして大変貴重な資料となっております。今後もこの機関誌を十分に活用し、技術革新、産業構造等の対応を図られ、組合員の経済的地位の向上と発展をめぐされることを期待しております。

金属団地ニュースがこのたび500号、41年にわたり発行され続けてこられたのは、直接編集・発刊にあたってこられた組合員・青年部・組合事務局の方々のご努力と一つ一つの積み重ねによる賜物と高く評価いたしております。また、『ふいご』欄に寄稿されている組合員各位の寄稿文を今後も大いに期待しております。

中央会でも、機関誌である「中小企業ぎふ」、ホームページ、メールマガジン、Facebook等の情報ツールを活用し、組合及び中小企業者の皆様に、中央会事業、組合事業、国・県の施策の情報等を各情報媒体により、情報提供に努めていく所存であります。

最後になりましたが、500号の発刊を契機に、従前にもまして柔軟な発想により斬新な感性を発揮して、機関誌の充実、組合員の連携強化と今後の更なる組合の発展につながることを祈念して、600号、700号をめざした広報活動が積極的に行われることを期待しております。

500号記念特集 目次

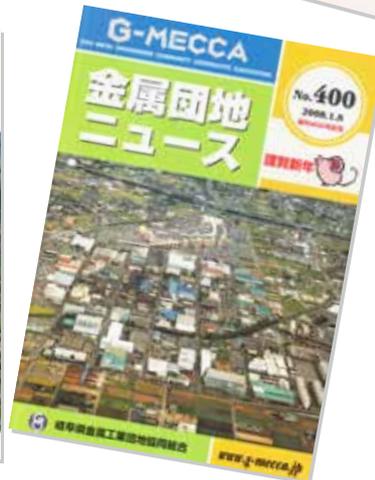
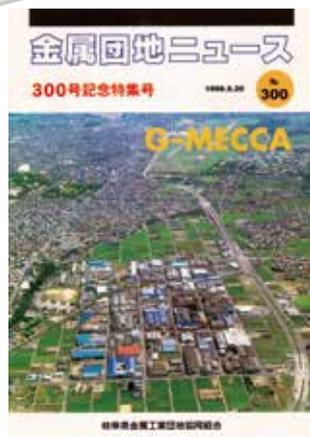
第1部

- とりあえず1000号まで・・・「金属団地ニュース」
- リバイバル漫画コーナー
 - ▶ 段階の世代 (2005年5月発行 第368号)
 - ▶ 靖国問題解決案 (2006年1月発行 第376号)
 - ▶ 新入社員5月病対策・・・組合主導の人材派遣事業 (2006年5月発行 第380号)
 - ▶ 三井川に油流出・・・でも今回はほんの少しでした・・・ (2004年1月発行 第352号)
 - ▶ 金属団地社長のための医療新技術 (2004年5月発行 第356号)
 - ▶ となりにイオンがやってくる! マイカー撃退 風評作戦 (2007年1月発行 第388号)
- 予告編!
創刊1000号記念誌「金属団地ニュース」の表紙の図柄と解説



第2部

- 金属団地ニュースの歴史



とりあえず1000号記念誌まで・・・ 「金属団地ニュース」

山本隆一

普通の日本人は大半が文字嫌いである。新聞なら見出しの大きい文字だけを読むとか、雑誌ならパラパラとページを流し読みするだけである。ほんとうの文字好き、本好き、読書好きの人はせいぜい一割くらいではないかと思う。その文字嫌いがほとんどを占めるのであろう金属団地にあつて、毎月発行される機関誌「金属団地ニュース」が年数にすれば42年弱、何と500号を達成したというのだから驚き以外の何ものでもない。普通ならとうの昔に絶版になつていても何の不思議もないのである。それがこんなに長続きしたのは何故か？これはマンガが果たした役割が結構に大きいと私は思っている。普通、組合員同志の会話の中で、団地ニュースの記事が話題になることはほとんどないが、マンガの題材が話題の中心になることはよくあることで、文字嫌いの人達でもそれが面白い絵になると、簡単に話題に引き込むことができる。このことに気付いたのが団地ニュースの編集者なのである。だから金属団地ニュースの編集委員会は、読者離れが起こりそうになるとすかさずマンガを登場させる。そうすると、しばらくは読者を惹きつけておくことができるのでマンガは一種の切札みたいな役割を担ってきたのである。読者諸君はまず最初にマンガのページを開き、その次に、ついでに文字のページに目を通すからこれを繰り返すことにより500号まで引張ってこられたのである。こうした工夫が数ある中で、極め付きは350号の記念特集号で、この時は掲載漫画大特集と銘打ち、過去に掲載された漫画を抜粋して、何と20ページにもわたる大特集が企画された。効果はてきめん。一度離れかかった読者が又、再びつながつたのである。

さて、最近の金属団地ニュースにはマンガが登場していない。文字と写真だけの編集だから、そろそろ読者離れが始まっているような気配である。そういえば最近、市販の週刊誌が売れなくなったという話をよく聞く。最近の週刊誌には劇画はあつてもマンガがなくなつてしまった。だから売れないのだと私は思っている。これが復活するには長谷川町子さんとか東海林さだおさんのような一筆でサラサラと描く一流の漫画家が登場しない限り下降線をたどるばかりだと思う。

よし、それなら金属団地は2匹目のドジョウをねらつて、500号記念誌には350号で掲載した以降の6点だけを抽出し、リバイバルで11頁分を再現してみよう。もう一度読者を引き戻す作戦だ。多分これだけで再び読者は舞い戻ってくるはずだ。ひょっとしたら市販の週刊誌より寿命が長い組合機関誌になるかも知れないよ。

そして最後にダメ押しの一発として、「金属団地ニュース1000号記念誌」の表紙の図柄を公表する。これは1000号記念誌の予告編だ。この記念誌は今から41年先の2058年1月7日が発行日である。その時金属団地はどうなつているか、漫画風に予想したのがこの表紙の図柄である。(19頁の解説参照)

乞うご期待、そうなるかどうか、それを見届けるまでちゃんと生きていて下さいね。何せマンガは無責任のカタマリなんですから。

段階の世代

第1段階

昭和21年。あの時から日本中にもものすごい数の赤ん坊が生まれた。



第2段階

成長するに従い、幼稚園も、小学校も、中学校もみんな足りなくなった。



第3段階

高校も大学も雨後のタケノコのように増え、ベッコ大学、オナパレードになった。



第4段階

就職・結婚の大ブーム。マイカーがほしい。マイホームがほしい。何でもほしい。



第5段階

出世競争、肩書きが足りない。課長見習、部長補佐とか、そんなのあったかなあ



第6段階

窓際族・リストラ族大発生。昇給カット、残業廃止、退職金減額...早くやめてくれ

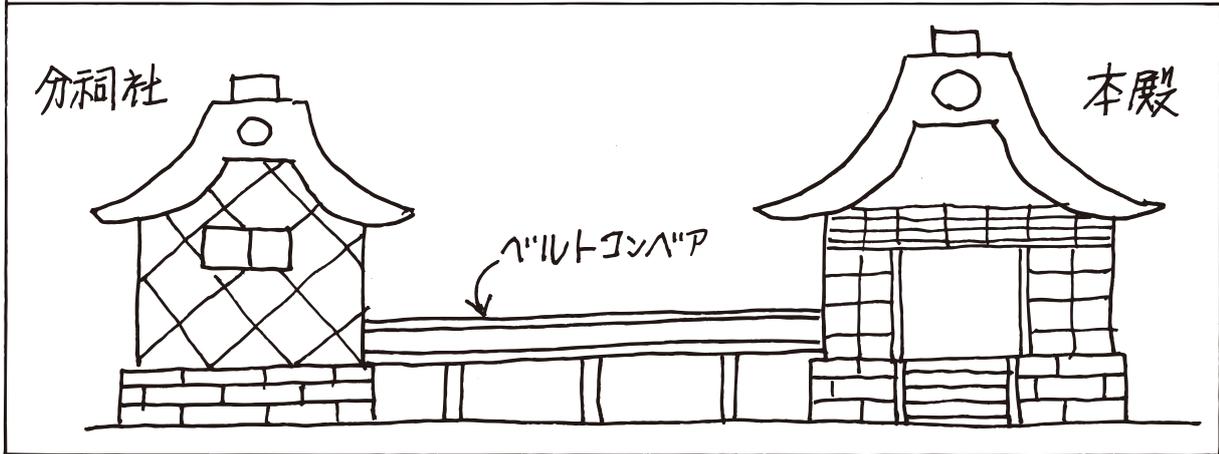


さて、ココまではすでに起こったことです。これから起こることは次項へ→

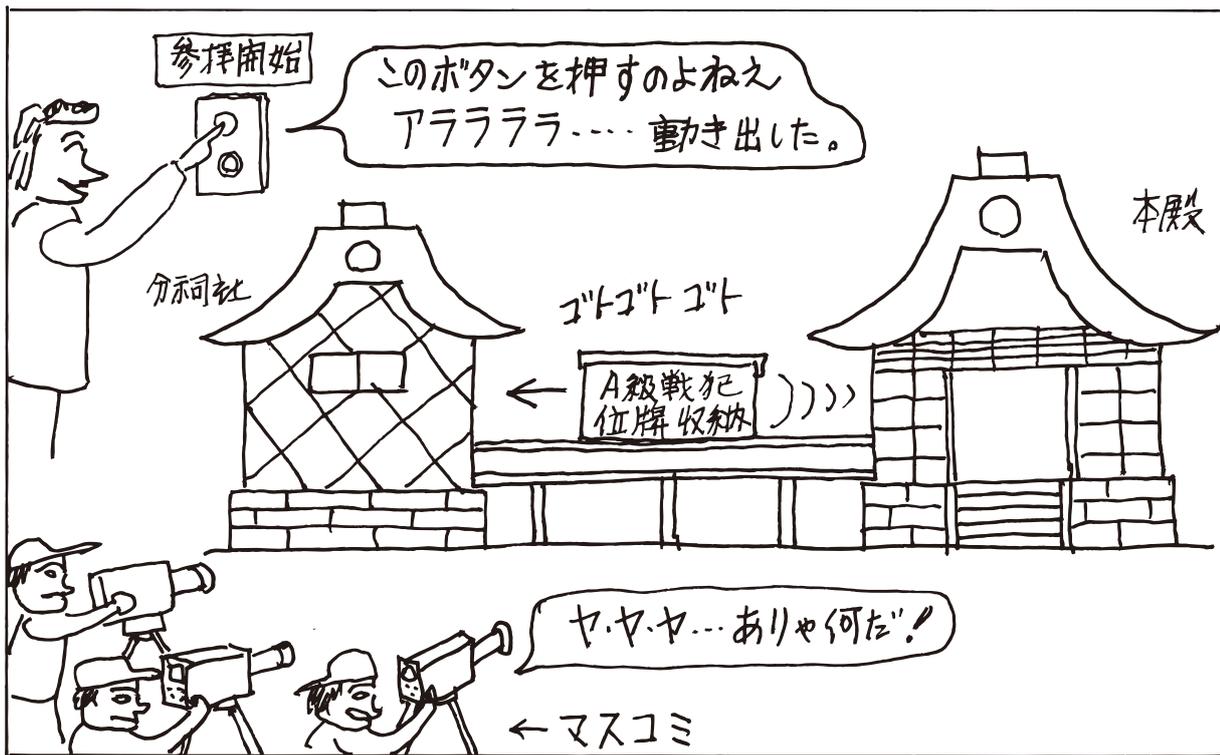
(次頁はもっと面白いけれど今回はページの都合で割愛)

靖国問題解決案

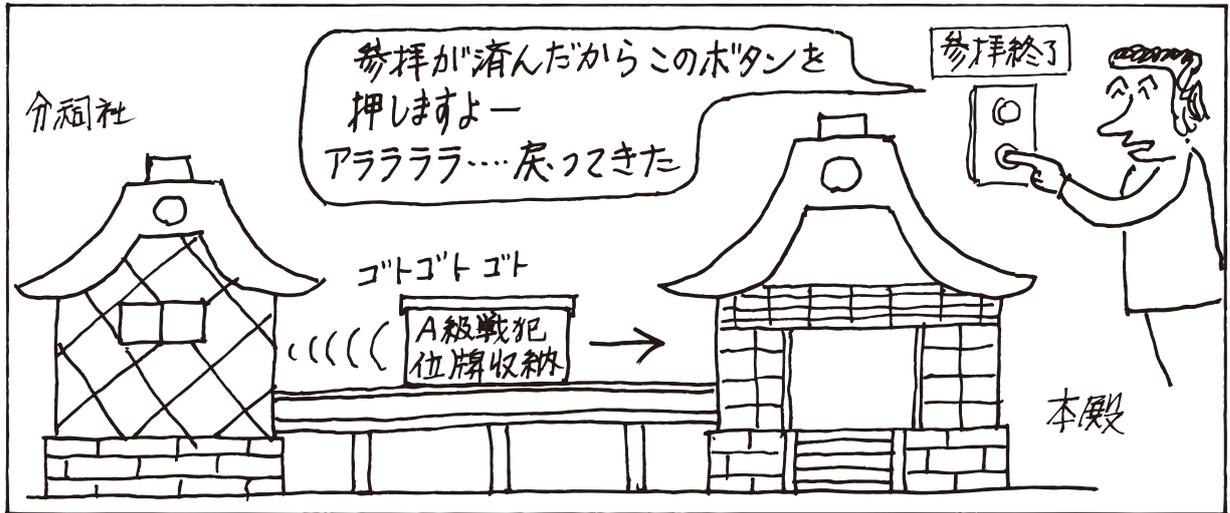
1. 本殿のすぐ隣に分祠社を建立する。そして本殿と分祠社の間をベルトコンベアでつなぐ。・・・これで準備完了。



2. 小泉さんは靖国を訪れ、参拝する前にまず「参拝開始」のボタンを押す。すると・・・本殿からゴンドラがベルトコンベアに載って現われ、分祠社に移動する。ゴンドラには誰にもよくわかる位置に「A級戦犯位牌収納箱」と書いてある。念のため日本語のほか英語、中国語、韓国語でも書いておくが良い。(早い話が分祠社は一種の避難小屋です。)



3. 小泉さんはゴンドラが分祠社に移ったのを確認してから参拝する。参拝が終わったら次は「参拝終了」のボタンを押す。すると・・・分祠社に入っていたゴンドラが再びコンベアに乗って本殿に戻ってくる。ハイ。これで終わりです。



中国や韓国の人達が何かおっしゃれば小泉さんは「何ら問題はありませぬ」と云って突っぱねてしまえばよろしい。でも、あのゴンドラに本当に位牌が入っていたのかどうか、小泉さんをはじめ日本国民の誰一人、その真実を知りませぬ。ひょっとして中身の入っていないカラの箱だけが往復したのかも知れないのです。日本人は信頼する靖国の宮司様が「日本人のためにならないようなことをなさるハズがない」と信ずれば良いだけのことです。中韓の人々がこのことに疑いをもって「ゴンドラの中身を点検させろ」と云うのでしょうか。僕はそれは絶対にないと思います。ローマ法王のおわすヴァチカン宮殿の一番奥の扉をあけて中身を点検させると、もし異教徒が云おうものならそれこそ戦争になってしまいます。それと同じで中韓の人々もそうしたことはよく知っていますから、そんなことを絶対に云うハズがありません。どのみちその真実を確認できないのですから、中韓の人々には中身は入っていると信じてもらい、日本人の方は中身はカラッポだと信ずれば良い。お互いに都合よく信じあえばこの問題は解決するのです。要するに確認できないことを前面に出して水カケ論に持ち込む。これで一件落着です。もちろん小泉さんに限らず共産党の人でも、社民党の人でも、A級戦犯を拝みたいくない人は誰でもこのボタンを押して下されば良い。信教の自由とはまさにこうゆうことを云うのではありませぬか？

さて、マスコミの人達はこうしたパフォーマンスは大好きですから、ゴンドラがゴトゴト移動する映像を全世界にテレビで放映するでしょう。そしてそれを見た世界中の人々は腹を抱えて大笑いするに違いありません。そしてそれをどう評価し、軍配をどちらに上げるのか。僕は多分、日本人の方にあがると思いますけど……。

新入社員5月病対策…… 組合主導の人材派遣事業

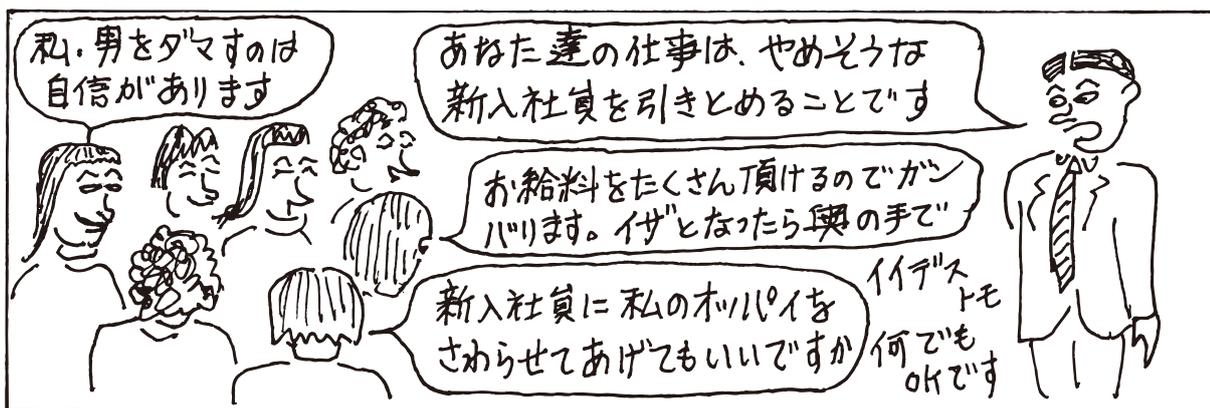
1. 組合事業として人材派遣事業を行うことを理事長が宣言する。



2. 募集する人材は、若くてピチピチした美人女性ばかりを厳選して採用し、彼女達をとびきり高給で組合が雇用する。



3. 雇用した人材を、その目的のために特訓した上、新入社員を採用した組合員企業に組合から人材派遣する。



4. 企業に派遣された女性達は、何せ高給だから誠心誠意その目的のために献身的努力を傾注する。きっとそうなる。

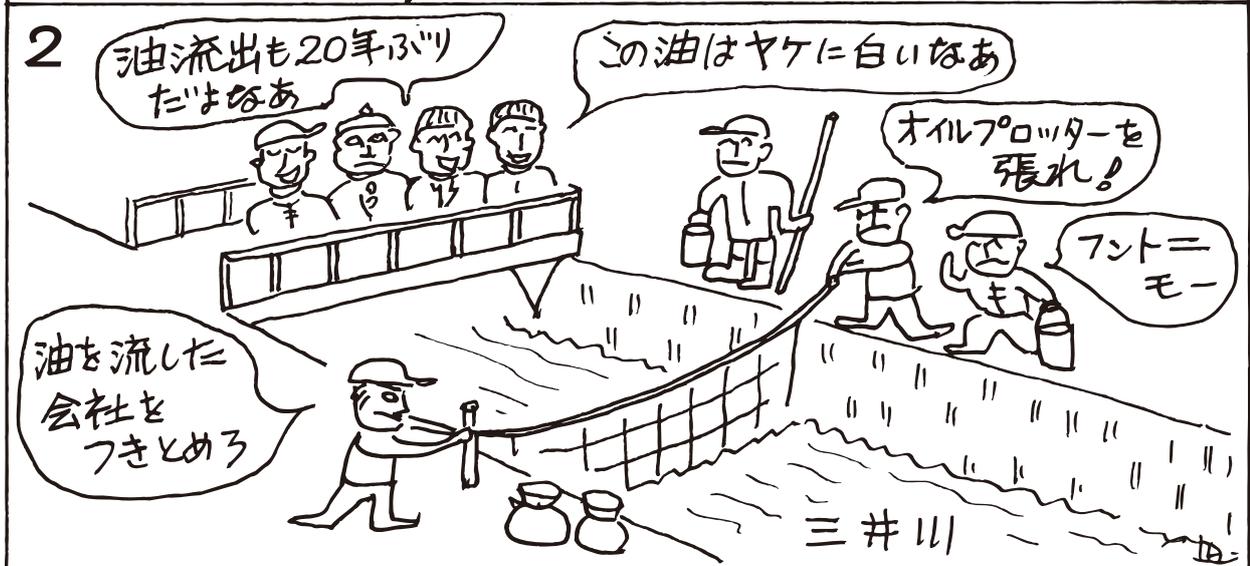
まあ、早い話がホステスみたいなもんだけどね。



5. かくして1年後、新入社員の定着率は100%を達成。組合は派遣を受け入れた組合員から、派遣費用とその効果に応じた割増金を徴収して組合事業は終了する。社長は新入社員が定着してくれて喜ぶ。組合は臨時収入を手にすることができて喜ぶ。派遣女性はたんまり高給を支給してもらって喜ぶ。そして何より、新入社員は彼女達と楽しく1年を過ごすことができ喜ぶ。みんなが喜ぶからこの事業は成功する。きっとそうなる。そして社長さん達は「来年もやってくれ」と言い出す。きっとそうなる。必ずそうなる。そうなることはわかっている。

三井川に油流出！

・・・でも、今回はほんの少しでした・・・



4 トナリの会社も、みんなうちの会社ではないという。



5 そこで急遽、環境特別委員会が開かれました。

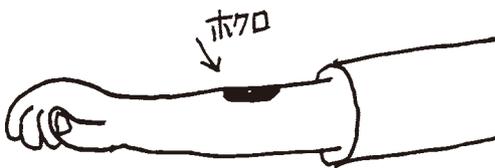


その昔、金属団地に油流出事故が3回も、タテ続けに起こったことがありました。

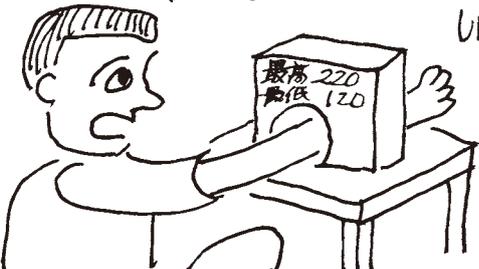
「これはタタリじゃ！」ということになり、組合員全員がウチ揃って南宮大社に参拝し、御祈禱をしてもらったことがあります。早いものであれから20年、不思議なことにそれ以来、こうした事故はピタリとなくなり、神様の威力のスゴさに組合員一同、感激を新たにしました。以来、毎年正月7日に南宮大社に必ず参拝に行きますが、これはその時から始まったことで、組合行事の一つになりました。ところが最近ほんのチョットですが、組合員に少しばかり気のゆるみを感じられるようです。南宮大社への参加者がだんだん少なくなっているのは、それを端的に表わしています。また再び「タタリじゃ！」といって大騒動しないよう気をつけましょうね。

金属団地社長のための医療新技術

ハゲに悩んでいる社長のために

<p>1 年をとるとこんなところに大きなホクロができる</p>  <p>ホクロ</p>	<p>2 不思議なことにそのホクロのところは黒くて太い毛が密集して生える</p>  <p>これはよく見かける現象だ。</p>
<p>3 この現象を利用し、そのホクロの皮フを社長の頭皮に移植する</p> 	<p>4 移植する皮フが途中で足りなくなつて今日はココまで</p>  <p>どにかへんだなあ</p> <p>このスタイルはどにかで見たことあるよなあ</p> <p>外野席</p>

高血圧で悩んでいる社長のために

<p>1 彼は組合の血圧計で毎日測つて一喜一憂している。何ともいたましい光景だ。</p>  <p>最高 220 最低 120</p>	<p>2 可愛そうだから何とか助けてあげよう</p>  <p>ヒヤー 250も上つたもやダメか</p> <p>そうだなあ このままでは彼は死んじゃうよ</p>
<p>3 そこで彼にナイフでこっそり血圧計を細工する</p>  <p>最高 220 最低 120</p> <p>ココのネジをゆるめると低く表示できます</p> <p>恥度</p>	<p>4 その日から彼の表情はメッキリ明るくなった。金属団地に平和が訪された。</p>  <p>ヤッター</p> <p>最高 130 最低 80</p> <p>彼の笑顔を見るとうれいわ</p> <p>外野席</p>

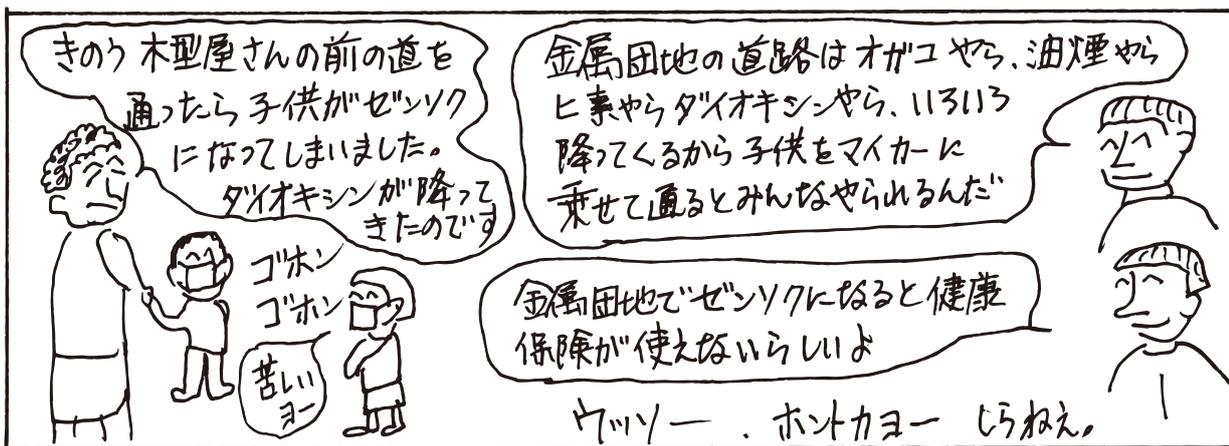
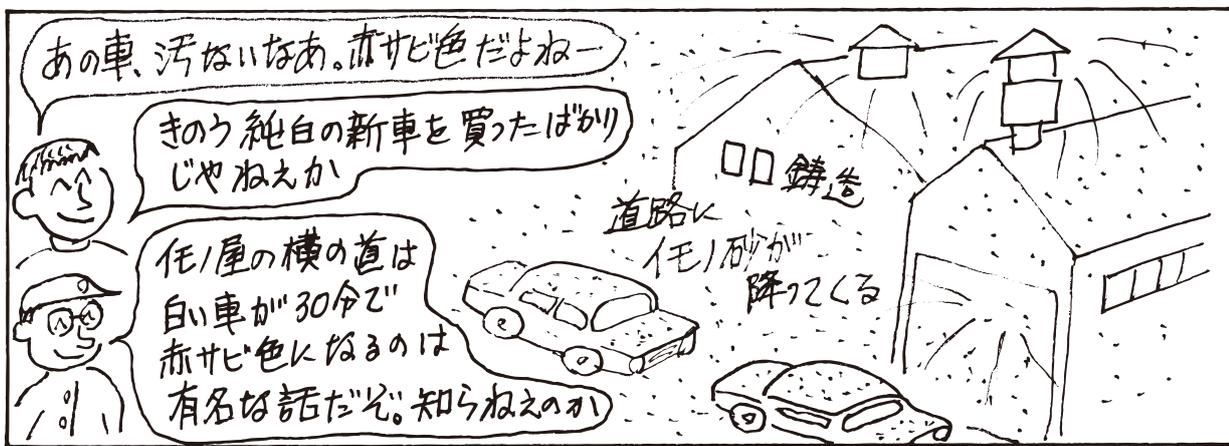
社長の体調が悪いときの医師の問診モデル

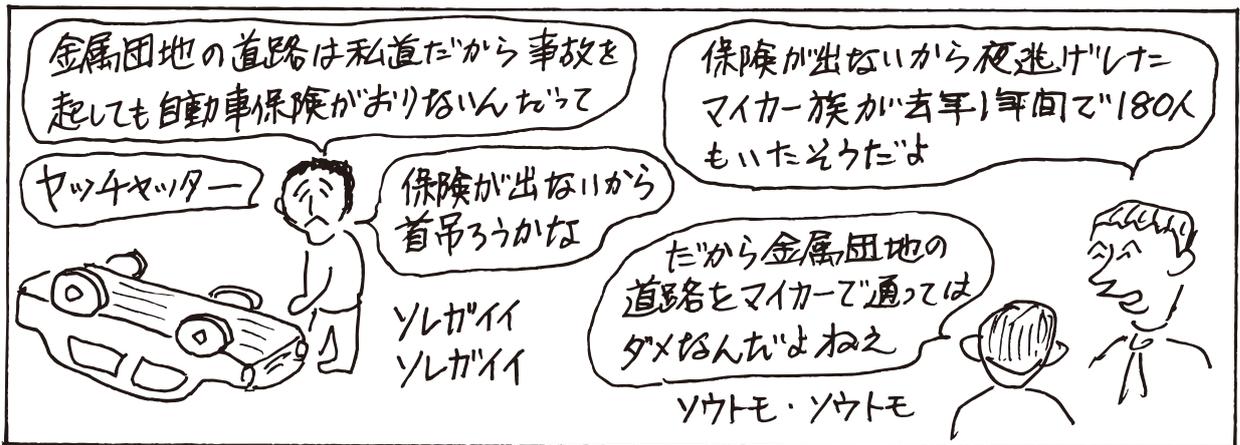


となりにイオンがやってくる！

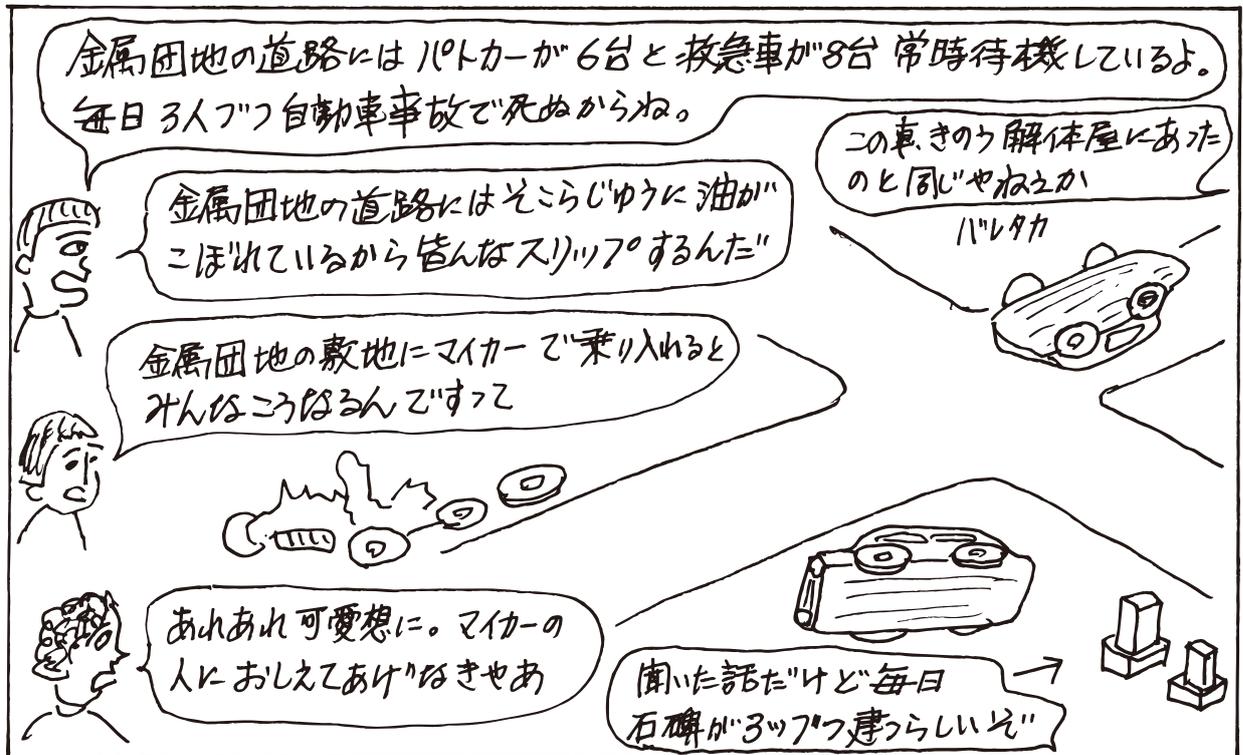
マイカー撃退 風評作戦

イオンがオープンすると金属団地の道路はマイカーであふれかえる。こいつらを何とか追い払わなければならない。何かいい妙案はないか。そうだ！この手で行こう。題して「マイカー撃退風評作戦」。うまくゆくとするよ。





イオンがオープンする数日前になったら、事故でクシャクシャになった車を数台借りてきて、金属団地の要所、要所に放置しておく。これが最後の仕上げです。



金属団地は地獄みたいなところだと云うことをマイカー族に印象づけるに限る。あの敷地に乗り入れたら口なことになるという風評を、我々みんなで広めることだ。社長さんも、従業員も、職員も、青年部も一致協力してあることないことを全部あることにして、そこらじゅうで悪いウワサを拡散する口コミ作戦。そんなウワサを耳にしたマイカー族はやっぱり少しは敬遠したくなるのが人間の心理。その弱点をついた風評作戦。きつとうまくゆくと思うよ。理事会でも実行に向けて決議してみてはどうかね。それとも他に何かいい妙案はあるの？

予告編！ 創刊1000号記念誌 「金属団地ニュース」の表紙の図柄

No.1000

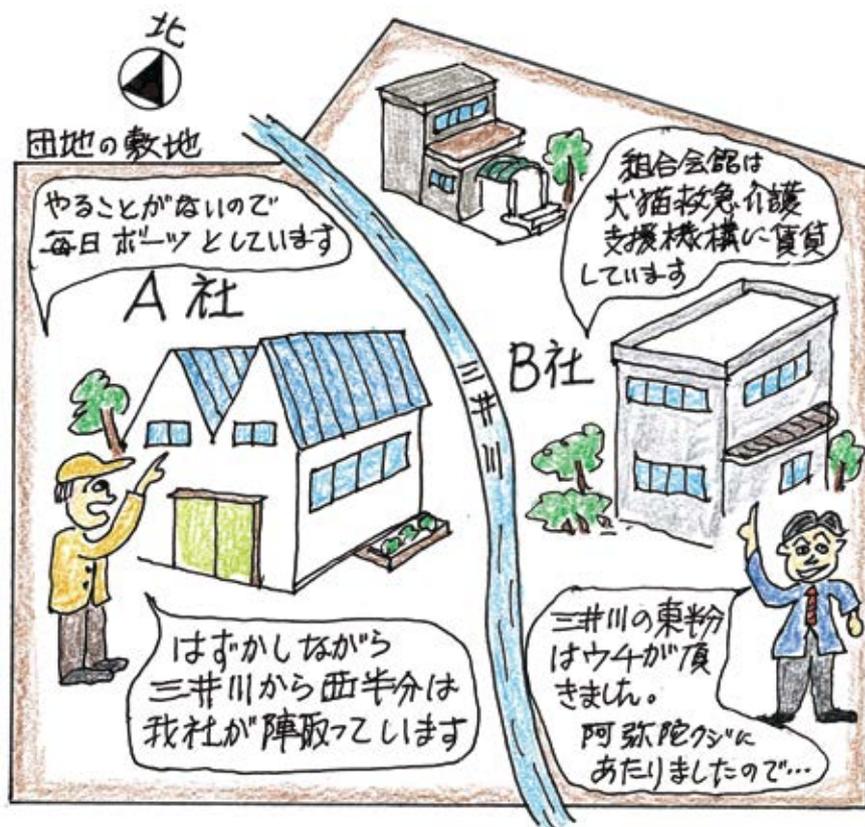
2058.1.7

KINZOKU DANCHI NEWS Since1974

金属団地ニュース

—創刊 **1000** 号記念—

2058年 金属団地敷地区割り図



岐阜県金属工業団地協同組合

金属団地はこの2社が専有した。
---というところこそはよろしいが、
実は、ほかに行くところの無い、
落ちこぼれの2社なんです。



(予告編) 1000号記念誌表紙

表紙の解説

2058年の金属団地はA社とB社の2社だけが専有することになりました。これがその表紙の図柄です。現在の価値観から見れば勝ち残りの2社のように見えますが実は、その正反対。金属団地は月面に第2団地を形成し、みんなそちらに引越してしまいました。月の引力は地球の1/6ですから重さは1/6、速さは6倍、必要なエネルギーも1/6、だからコストは1/6になるから儲けは6の4乗(?)、儲かって、儲かって仕方がない。月の世界は空気も水も食料も何もありませんが、働いている従業員はロボットばかりですから、そんなの無くて何の支障もありません。できた製品は月の上空からポイと投げ捨てれば地球の引力に引かれて全部地球に届きます。つまり運賃はゼロ。そんなおいしい話についてゆけなかったのがアカンタレの落ちこぼれ2社です。なに!「41年先に月の世界に第2団地を造るなんてとても考えられない」って?

だったら月ではなく地球上のどこか別の場所に設定を変えてもいいですよ。答えはやっぱり勝ち残り2社ではなく、落ちこぼれの2社になると思いますけどねえ。

そもそも工業団地というのは規格大量生産に最も適したように造られたシステムですから、そうした生産方式は全部、発展途上国に移行するから、つまりはココは用なしの工業団地になる運命。だから勝ち残りどころか、落ちこぼれのアカンタレ2社になっても何の不思議もありません。むしろアカンタレ10社、20社にならないことを祈るばかりです。ハイ。

金属団地ニュースの歴史



● 1号 S49.9.10

うぐいす色の紙に印刷された全4ページの記念すべき第1号、ここから団地ニュースの長い歴史が始まりました。

当時の団地ニュースは毎月異なる色紙を使ったB5サイズのもので、現在も続く『組合だより』、各種情報や豆知識を紹介する『ミニミニ講座』、視察出張のレポート等、内容は充実したものでした。



● 5号 S50.1.6

創刊後初の新年号は白いコート紙で、年頭の挨拶や組合役員による新春放談、現在のふいごを連想させる『随筆』等の文章が誌面を賑わせていました。



● 12号 S50.8.10

団地ニュースの看板内容といえる「ふいご」がここから始まりました。世代間の意見の食い違いを題材に、『わが金属団地もお互い老いも若きも自信をもって、もっと心をかよわす働きかけをしたいものである』と結んだ内容は、時代を超えて現在にも通ずるものであります。



● 13号 S50.9.10

表紙が『〇月の話題』と題した文章から組合行事等に関する写真になりました。



● 17号 S51.1.5

『私の趣味』の掲載が始まりました。



● 19号 S51.3.12

現在の青年部ページにあたる『合財袋』がスタート、まだ毎月の掲載ではありませんでした。



● 24号 S51.8.9

『特別寄稿』としての初掲載、これ以降現在に至るまで、多くの方の原稿を掲載させていただいております。



●38号 S52.10.17

この号より組合員企業代表者9名の若かりし頃を記した『青春懐古』が8ヶ月の間掲載されました。



●47号 S53.7.15

当時の組合顧問である下村和之氏による『伝声管』の掲載が始まりました。



●50号(記念号) S53.10.16

初のカラー表紙、初の折りページと初づくしの50号記念号となり、団地ニュースの編集も青年部が主体となりました。



●51号 S53.11.17

豆知識を紹介する『ミニミニ講座』の復活、あらゆる角度から物事を見た寄稿文『ザ・アングル』の掲載が始まりました。



●71号 S55.7.15

『私のたべある記』の掲載が始まり、山本隆一氏の『一コマ漫画』の隔月掲載が始まりました。団地内の企業を紹介する『企業訪問』もこの号から始まり、2年4ヶ月にわたって計53社を紹介しました。



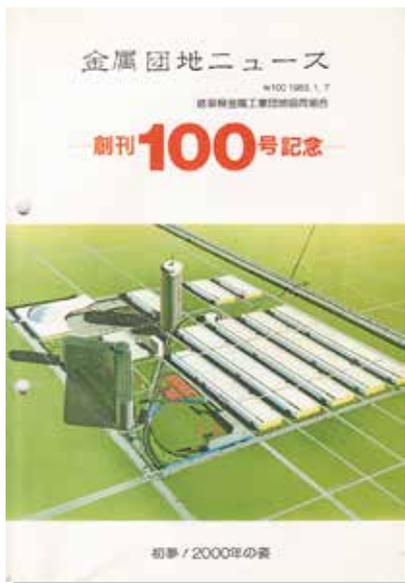
●82号 S56.6.18

おすすめの本を紹介する『団地図書館』の掲載が始まりました。



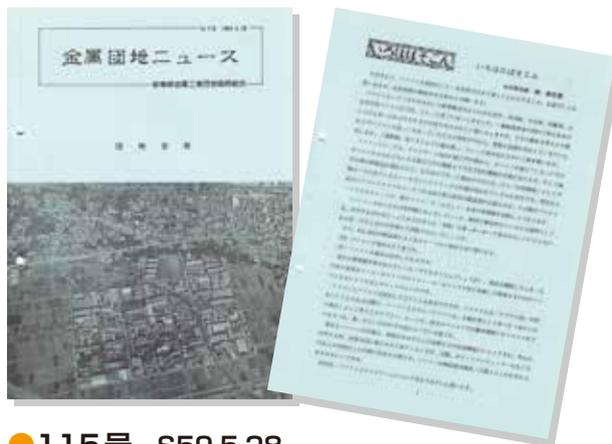
●83号 S56.7.20

ものづくりを題材にした『技術アラカルト』の掲載が始まりました。



●100号(記年号) S58.1.7

西暦2000年の金属団地を見ず
えての寄稿文や青年部歴代会長
による座談会、団地ニュースに過
去企画掲載されたものを再載す
る等、全50ページにわたる記念号
でした。



●115号 S59.5.28

林伸太郎氏によるパソコンを題材にした『いろはぱそこん』の掲載が
始まり、団地ニュースの表紙に初めて団地の航空写真が載りました。



●116号 S59.6.21

青年部会員を訪ね紹介
する『私のプライベート』の掲載が始まりま
した。



●120号 S59.10.22

クイズ形式の『よろず
コーナー』の掲載が始
まりましたが、わずか
3ヶ月での終了となり
ました。



●127号 S60.4.15

岐阜県中小企業団体中
央会より第1回組合会
報コンクールにおい
て、金属団地ニュース
が優秀作品に選ばれ表
彰をされました。



●141号 S61.6.16

青年部会員がおすすめ
の飲食店を紹介する
『青春さんぽみち』の掲
載が始まりました。



●142号 S61.7.21

団地内優良企業トップ
に聞く『団地内対談
トップは語る』の掲載
が始まりました。



●150号(記念号) S62.3.16
創刊150号を迎えました。



●160号 S63.1.7
新年号でお馴染みの当たり年の方を紹介するページが初めて載りました。



●161号 S63.2.22
編集委員会に寄せられる資料のなかでも、組合に関係の薄い内容のものを掲載する『休憩時間』というページが設けられました。



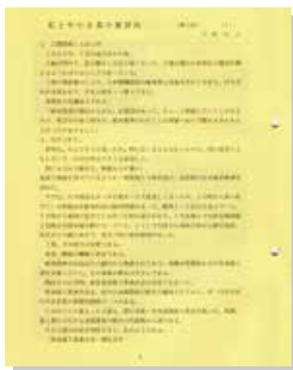
●162号 S63.3.22
企業訪問は企業のノウハウ=宝を聞くことができることから、企業訪問を『企業宝聞』として掲載がはじまりました。



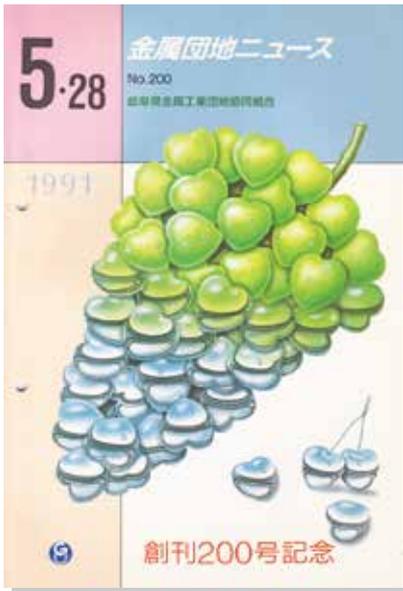
●173号 H1.2.20
昭和天皇の崩御を悼み、『特別記事』として昭和40年に団地をご視察された当時のお写真が掲載されました。



●186号 H2.3.19
組合員企業の『自社PRのページ』の掲載が始まりました。



●193号 H2.10.15
当組合2代目理事長下村和之氏による『私と中小企業の集団化』の掲載が始まりました。工場団地を造ることになった経緯から金属団地理事長を退任されて可児工業団地の建設までを全19回にわたって掲載しました。金属団地設立からの15年が詳しく書かれています。



●200号(記年号) H3.5.28

西暦2000年にむけての青年部歴代会長による座談会、組合員生き残りトーナメントと題したちょっと辛口な一コマ漫画、青年部会員の夢が書かれています。



●224号 H5.5.27

団地ニュースで初めて表紙以外のページでカラー印刷がされました。またこの号のふいごは、団地ニュースのマンネリ化を危惧する声に一石を投じる内容でした。



●212号 H4.5.26

新年号と総会号を除いて、この号より団地ニュースの用紙が毎月異なる色紙から黄なり色の紙に統一されました。



●214号 H4.7.20

米本富雄氏の文と初祖友希恵氏の絵による楽しい豆知識を紹介する『ちょっとひとこと』の掲載が始まりました。



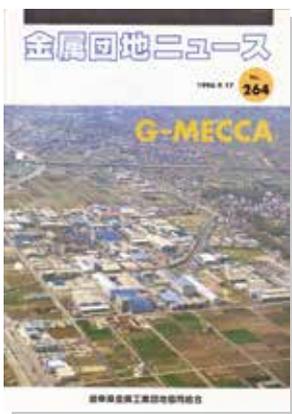
●225号 H5.6.21

224号のふいごを受けて、青年部が自ら『青年部のページ』を『青年部情報交換のページ』とし、内容充実を試みました。



●250号 H7.7.17

創刊250号を迎えました。



●264号 H8.9.17

団地ニュースが編集委員とともに一新されました。用紙はB5サイズからA4サイズになり、表紙に初めてカラーの団地航空写真が載りました。内容も新企画として組合員代表者からの投稿を載せる『社長の視点』、団地外の方からの投稿を載せる『天眼鏡』、山本隆一氏による団地の歴史を説明する『シリーズ解説』、おすすめの本を紹介する『おすすめBOOK』、知って得する情報を紹介する『なんでも博物館』を立ち上げ、『青年部情報交換のページ』も現在の形である『青年部コーナー』になりました。





●265号 H8.10.21

265号に続き団地内の方からの投稿を載せる『内視鏡』、渡辺隆士氏の写真コレクションによる『歴史探訪』が始まりました。



●278号 H9.11.17

世間で話題となっていることを筆者であるR・Yの独自の視点で斬る『ティータイムX』の掲載が始まりました。



●284号 H10.5.27

この号より総会号と新年号には山本隆一氏の漫画が掲載されるようになりました。



●300号 (記念号)

H11.9.20

団地ニュースの表紙の航空写真を更新、青年部によるこれからの青年部のあり方をテーマにした座談会と団地内外からの未来にむかっの寄稿文、漫画セミナーを掲載しました。



●307号 H12.4.17

金属団地内企業に就職した新入社員の一人ひとりの紹介が初めて載りました。



●314号 H12.11.20

組合員企業の情報交換を目的とした『組合員企業情報ファイル』が始まりました。



●315号 H12.12.18

団地の若年寄りによる『温泉&食べ歩き』の掲載が始まりました。



●325号 H13.10.22

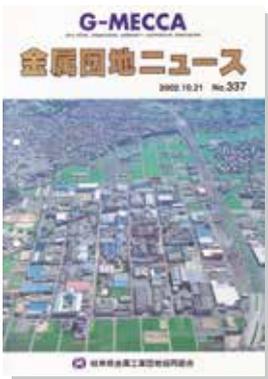
団地ニュースの表紙の航空写真を更新するとともにデザインも変更されました。



● **335号 H14.8.19**
団地の旅人による『寝台列車』の掲載が始まりました。



● **336号 H14.9.17**
杏人による『健康一口メモ』が『なんでも博物館』内に登場し掲載が始まりました。



● **337号 H14.10.21**
団地ニュースの表紙の航空写真を更新するとともにデザインも変更されました。



● **347号 H15.8.18**
田中良卓氏による四国巡礼の旅『おへんろさん日記』の掲載が始まりました。



● **350号(記念号) H15.11.17**
山本隆一氏による『掲載漫画大特集』として過去団地ニュースの誌面を飾った数々の漫画が集められました。



● **357号 H16.6.21**
団地のNゲージによる『列車よもやま話』の掲載が始まりました。



● **359号 H16.8.17**
山本隆一氏による“金属団地極秘裏話”が2ヶ月に渡り掲載されました。



● **361号 H16.10.18**
旅行記特集と題して発行され、組合員親睦旅行、青年部親睦旅行、田中良卓氏による英国ゴルフツアーと旅行色満載の内容でした。



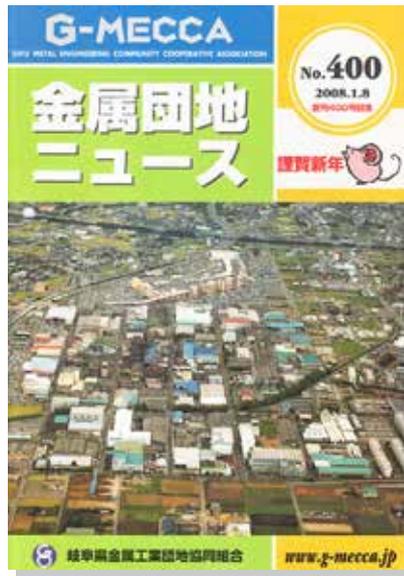
● **364号 H17.1.7**
題材自由で不定期掲載の『こぼれ話し』の掲載が始まりました。



● **368号 H17.5.27**
『健康一口メモ』が『健康コーナー』としてリニューアルし、安藤内科医の記事が初めて載りました。



● **382号 H18.7.18**
久徳庵による“青春紀行”が3ヶ月に渡り掲載されました。



● **400号(記念号) H20.1.8**
団地ニュースの表紙の航空写真を更新するとともにデザインも一新、創刊号全ページと節目となる記念号の表紙を載せるとともに団地ニュースの歴史を振り返りました。



● **419号 H21.8.24**
雪坊主による富士登山が4ヶ月に渡り掲載されました。



● **435号 H22.12.20**
下村尚之氏著書『ようこそ物づくり快館へ〜続・アナ物語〜』の内容を抜粋し掲載を始めました。



● **450号 H24.3.19**
団地ニュースの表紙を組合創立50周年記念誌に合わせて一新し発行されました。

編集委員会よりお願い

長く続く団地ニュースも、最近では新しい企画も無くマンネリ化に陥っています。これはおもしろそうだ、こういったことをしてほしい等、どんどん編集委員会に提案して下さい。皆さんの声で団地ニュースは作られ、これからも成長を続けていきます。

熊本震災義援金について

被災地・被災者の皆様に、心よりお見舞い申し上げます。

この度、「平成28年熊本地震」において、お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災者の皆様に、心よりお見舞いを申し上げます。

被災地においては、一日も早い復旧と、皆様のご無事を、お祈り申し上げます。

被災地・被災者の皆様の、少しでもお役に立てればと思い、僅かばかりの義援金を届けさせて戴きました。

平成28年4月22日

岐阜県金属工業団地協同組合

代表理事 今井 哲夫

平成28年4月14日に発生した熊本県熊本地方を震源とする最大震度7の地震により、熊本県益城町を中心に大きな被害が出ております。この災害で被災された方々を支援するため、4月22日に今井理事長のメッセージとともに50万円の義援金を、各務原市福祉総務課を通じて日本赤十字社に届けました。



4月度月例会開催

4月18日(月)の正午より研修センター 3階の集会室において4月度月例会が開催されました。今回はテーマを『公共職業訓練の利用について』とし、下記の3氏を講師にお招きしご説明をいただきました。

- ①県内の公共職業訓練案内と人材開発関連セミナーについて

国際たくみアカデミー 加藤款哉氏

- ②岐阜県立国際たくみアカデミーの概要について

国際たくみアカデミー 梅田浩司氏

- ③ジョブカード制度の利用について(補助金などの利用)

岐阜県地域ジョブカードセンター 松本晃氏



加藤款哉氏



梅田浩司氏



松本晃氏

新入社員激励会&紹介

4月11日(月)、新入社員激励会が組合研修センター 3階集会室にて開催されました。今年は13社、31名の新入社員の参加が得られました。冒頭、今井理事長から新しい職場で希望と目標を持って頑張ってくださいと激励の言葉が述べられました。理事長の挨拶の後、金属団地50年の歩みを収録したDVDを鑑賞し、全員で記念写真を撮影し新入社員激励会を終了致しました。

その後、中小企業診断士の澤芳美先生のセミナーに移りました。澤先生には毎年新入社員のセミナーをお願いしており、『職場のプロをめざして』～社会人としての新しい生き方の発見～と題し、社会人の心得を中心に話していただきました。次のページから載せてあります新入社員紹介のコメントにも書いてありますが、このセミナーで学んだことを生かして、各々の職場でこれからがんばってもらいたいと思います。





新入社員ご紹介



フジカケ タケル
藤掛 武尊

丸嘉工業(株)

今日の話聞いて、卒業は新しい始まりだということを学んだので、また、一つひとつ仕事について学んでいきたい。また、社会人として当たり前なことでも守れていないこともあるので、しっかりと守っていききたいと思う。仕事をするうえで知っていることはとても大切だとわかったので、分からないことは先輩などに積極的に聞いて覚えていききたいと思った。



オガワ
小川 ルーカス

丸嘉工業(株)

今日の話聞いて、これからより良い社会人になるための知識を学びました。これからは今日学んだ内容と先輩からのアドバイスを大切に、会社のために頑張っていきたいと思いました。



シンザト
新里 シュウヘイ

丸嘉工業(株)

今回の新入社員研修では、ビジネスの基本は約束を守ること、責任を持つことなどが大切だと分かりました。仕事の方では、期限を守ること(納期など)、仕事には原価(コスト)がかかっている、優先順位がある、手順がある、結果がものをいうなどのことを、これから意識してやって行きたいと考えています。



コバヤシ ケイタ
小林 圭太

丸嘉工業(株)

今回の新入社員向けの研修では、これから社会人として必要である、3大原則であったり、ビジネスの基本的条件、仕事に大切な7つのポイントなどを教えてもらったので、これから働いて行く中でいかせる所があれば、是非いかしていきたいです。



マツヒサ マサヤ
松久 将也

(株)杉山

まだ社会人としての一歩に過ぎないので、まずは挨拶などをしっかりと行い、人間関係を作り、少しずつですが仕事を覚えていきたい。



ノムラ ルイ
野村 流惟

(株)杉山

これからは、新入社員として今日学んだビジネスの基本の約束を守ることや、責任を持つこと、逃げずにいばらずを守っていきたくて思いました。そして、仕事の厳しさを知りました。仕事では結果がものを言うことや、優先順位があり、ちゃんとした手順があることも分かった。そして、とにかく3年間がんばれと言っていたので、それまではどんなに厳しくてもがんばって耐えていきたいです。



モリ ユウスケ
森 裕介

岐阜愛知電機(株)

今日、激励会と澤芳美先生のセミナーに参加させていただき、短い間でしたが良い勉強になりました。澤先生の話の中には自分に言っているのではないかと思う部分がありました。色々不安な点が多々ありますが、とりあえず頑張っていきたいです。抱負としては、まだ会社について右も左も分からない私ですが、まずは仕事、名前を覚えるところから始めていきたい。「亀であれ」誰に言われたか覚えていませんが、ゆっくとゴールを目指して頑張っていこうと思う。



ヤスダ タカヒロ
安田 考宏

岐阜愛知電機(株)

今回澤さんの話を聞いて大事なことをしっかり教わりました。まず新入社員にとって大切な3つのことがありました。卒業はこれから新しい事の始まりであるということや、仕事は3年くらいで一人前になれるということでした。他にもビジネスで大事な基本の条件や、仕事で大切な7つのポイントを教わりました。ここで聞いたことを確実に自分のものにして、これからの仕事に生かして行けるように頑張っていきたいと思いました。



ナカノ ケント
中野 憲人

岐阜愛知電機(株)

今回、澤芳美さんのお話を聞いて、仕事の基本や社会人の基本を教えてもらいました。たとえ話や問題など分かりやすく教えてもらい、仕事の進め方や手順が分かりました。今回の話を聞いて、まず三年間は嫌なことがあってもあきらめずにつづけ、早く仕事ができるようになって、三年後はアドバイスできるくらいになりたいと思いました。



フジムラ テンヤ
藤村 天也

ホラタ、工業(株)

今回の新入社員激励会での話を聞いて、色々勉強になりました。新入社員の三大原則や仕事に大切な7つのポイントなどの、仕事は120%やれ、仕事は協働であるという言葉聞いて、これからの会社での仕事の時に意識していこうと思いました。他にも先輩の体験談などもこれからに生かしていこうと思いました。今回みたいに新入社員は人の話を聞くことが多いと思うので、言われたことをしっかり覚えて、これから先しっかりと頭に残して社会人生活を送っていきたいです。



サワムラ シュン
澤村 瞬

ホラタ、工業(株)

今回学んだ新入社員の大切なこと、また社員としての基本を生かしていき、これから仕事をするとともに少しでも早く一人前になれるよう頑張りたいです。



キノシタ ショウマ
木下 将真

ホラタ、工業(株)

今日の話聞いて3年間で会社の役に立てるように1日1日をしっかりとやり切り、頑張ろうと思いました。とても良い新入社員激励会だと思いました。



シロヤマ アコ
城山 阿子

ホラタ、工業(株)

普段聞けない話が、今日聞いて貴重な体験ができたと思います。今日聞いた話を忘れずに仕事していきたいです。



コイズミ カズヒト
小泉 一仁

東海ダイカスト工業(株)

新入社員激励会で行われた新入社員としての心構えの澤芳美さんのお話は、飽きることなく為になる話でした。3大原則やビジネスの基本条件、仕事に大切な7つのポイントでは、心構えはもとよりビジネスに対する考え方や自分がすべき行動がよく分かりました。最初に話された、まず「カタチ」から入れ!という言葉は心に残っています。



サトウ アヤ
佐藤 亜弥

東海ダイカスト工業(株)

今日の話聞いて、仕事に大切なポイントやビジネスの基本的条件などを知ることができました。今まで学生だった私には初めて聞くことだったのでとても勉強になりました。私は今日学んだことを生かして小さいことでもたくさんのことを学び、どんどん勉強して一人前になれるようにしたいです。またどんな仕事も自分の全力で取り組みたいです。



コバヤシ トモヤ
小林 智弥

東海ダイカスト工業(株)

今日の話聞いて新入社員の守るべき3大原則など、いつまでも学生気分ではなく、新社会人にとっての常識を知ることができました。また仕事に大切なことなど、とても重要なことを教わり、今後仕事に対しての気持ちを考え直していくべきだと思いました。



ゴケンイワ ユウキ
五間岩 佑季

三星工業(株)

がんばっていきたいです。



ノノムラ マイ
野々村 真衣

三星工業(株)

普段はなかなか聞けない社会人としての大切さを学ぶことができ、とても勉強になりました。その中でも、ビジネスの基本条件の「逃げない」という点では、社会人の仲間入りなので、自分に甘くならないよう、常に自分に厳しくし、いやなことでも逃げずに立ち向かおうと今日の話聞いて思いました。自分の将来を描いて、前にだけ進んで、成長していきたいと思っています。



ニワ キョウスケ
丹羽 響介

(株) 鷺飼

今回の講演で、新入社員がこれから仕事をやっていく上で大切なことを教えていただき、何も分からなかったことが、少しでも自分の中で何か分かった気がして自信が持てたので、今回教えていただいた仕事に大切な7つのポイントを日々大切に覚えていながら仕事に臨んでいきたいです。



オカダ ショウタ
岡田 捷汰

(株) 鷺飼

今日セミナーを受けて仕事に大切なことを教わることができました。最初に会社ではまずカタチから入れと言われて、自分は今までそんなこと考えたことがなかったからやってみようと思いました。仕事には大切なポイントがあって、それを守るように心がけて社会人としてがんばっていきたいです。



タケヤマ ダイキ
武山 大貴

華陽自動車興業(株)

色々為になる話や、色々なことをするコツやことわざなどで、これからの仕事に活かせると思った。先輩の言葉を参考にしたい仕事していきたい。



スギヤマ ゲンヤ
杉山 弦也

華陽自動車興業(株)

これからは、自分に与えられた仕事をきっちりとこなし、少しでも早く会社に貢献できるようにしたいです。職場のプロとして、今日習ったことを生かして頑張っていきたいです。



ワタナベ タクト
渡邊 拓人

華陽自動車興業(株)

社会人として、これから働く中で重要なポイントが分かったので良かったです。責任がとても重くのしかかったようで、気を引き締めていきたいと思っています。分からないことが多いですが、メモをして、聞いたりして、会社に必要とされるような人になりたいと思いました。長く続く金属団地の歴史を絶やさぬよう、より続くように頑張りたいです。



アキタ シュンスケ
秋田 隼輔

(株) 秋田鉄工

今日は、社会人として基本的なことを学びました。その中でも「仕事に大切な7つのポイント」が頭に残りました。学生の時とは変わってくる所が出てくると思うので、この「仕事に大切な7つのポイント」を忘れずに思い出して立派な技術者になれるよう、一生懸命頑張ろうと思いました。



スズキ ダイセイ
鈴木 大聖

MTK(株)

仕事は、結果がものをいう。優先順位・手順があります。早く作業のコツをつかむ事が良い方向へ向かうための一歩だと思うので、先輩・上司の姿を見て、一日一日進化していきます。先輩からのアドバイスでは、情けは人のためならずという言葉には、人に親切にすれば自分に返ってくるという意味があると知り、会社にはこの言葉は大切だと思いました。





ヨコヤマ マサヤ
横山 雅弥

(有)高橋鉄工所

分からないことやためになることを聞いて良かった。今日聞いたことをたまには思い出して働いていきたいと思った。



マキダ エイスケ
牧田 瑛介

今井航空機器工業(株)

今回、社会人としての生き方の講習を受けて「カタチ」から入るということ学びました。そして、学生生活よりも勉強しなければならないという言葉を受けて、より気を引き締めて臨んでいかなければならないと思いました。学生と社会人の責任の重さが違うことを自覚しなければならぬと思いました。



オグラ ケンタロウ
小 椋 堅太郎

今井航空機器工業(株)

「職場のプロを目指して一社会人としての新しい生き方の発見」という議題でお話をお聞きしました。大変勉強になることが多く、新入社員の3大原則や仕事に大切な7つのポイントなど自分のためになる話ばかりでした。今後はこのお聞きしたことを活かせるようにまじめに誠実にやっていきたいです。



ミヤケ シマ
三宅 司真

今井航空機器工業(株)

金属団地の50年の歴史を少しは知ることができました。社会人として大切なことを学ぶことができました。学生を卒業して新しい始まりとなったので、学生の頃は許されることも許されなくなるので、責任を持ち約束を守るようにしたいです。仕事は協働してやっていきたいです。



アンドウ カズマ
安道 一馬

今井航空機器工業(株)

今回の講習でお話しされた新入社員の三原則やビジネスの基本的条件、仕事に大切な7つのポイント等の事や先輩方からのアドバイスであることわざの意味等をしっかりと覚えておき、今後の仕事に役立てていきたいと思いました。



ゴトウ リナ
後藤 梨那

岐阜県金属工業団地(協)

私は、これから覚えていかなければいけないこと、やっておかないといけないことが沢山あります。1年目でやり方や形を覚えて、2年目で順序を覚え、3年目にはやっと働くことができます。今の内に勉強できることは沢山聞いたりして手探りしながら覚えていきたいです。そして、先輩のアドバイスを覚えながら仕事をしていきたいと思いました。仕事に大切な7つのポイントも忘れることなく、これから頑張っていきたいと思いました。

ビジネスの心得8ヶ条

- 1、あいさつを大切にせよ
- あいさつは人間関係のはじまりである -
- 2、ケジメを忘れるな
- ケジメは人間関係の句読点である -
- 3、ぞんざいな言葉を使うな
- 親しさとなれなれしとは違う -
- 4、自己中心的な態度をとるな
- 個性的と自己中心的とは異質なものである -
- 5、遅刻・無断欠勤をするな
- やむをえない場合は必ず連絡を -
- 6、公私混同するな
- 特に忘れてはならないのは時間のムダ -
- 7、陰日向のある人間になるな
- 要領第一主義では成長できない -
- 8、エリート意識を捨てよ
- 大切なのは学歴よりも実歴 -

※セミナー資料より



雇用対策（Ⅰ）

既に来年春の新卒者の就職戦線が始まっている。今年の春は、大学生も高校生も大変に高い就職率だったが、来年は更に高くなるだろうとの予想である。しかし、

- ①3年後の離職率は30%、5年後のそれは50%を超えるとの統計もある。
- ②大半が大企業中心で、地元の中小企業への就職は、更に少なくなって来ている。
- ③県内の大学・高校卒業生の70%以上が県外に、特に愛知県に就職している。

ただでさえ、人手不足に悩んでいる我々は、これらをどう考えたら良いのだろうか？

《人手不足》問題は、少子化・高齢化がますます進んで行く将来に向けて、ある意味、企業の存続における“永遠のテーマ”となって来る、と言って差し支え無いであろう。

この問題については、(i)各企業が取り組むべきものと、(ii)地域・行政で取り組むべきもの、との2つの取り組みがあると思われる。

(i)の各企業が個別に対応すべきものとして、「女性・高齢者の積極的活用」、「外国人労働者の効果的活用」、「徹底的な省人化・自動化対応」の3つが挙げられるだろう。だが、それぞれにデメリットも少なくない。

◎「女性・高齢者の積極的活用」では、就労期間の短さ、取り組み意識の低さ、実際の労働への体力的差異などが挙げられる。就職に対して、二の足、三の足を踏んでいるのは企業側だろうか、女性・高齢者側であろうか？条件などしっかり決めないと困る事が多くなりそうである。ちなみに当社は、146名中60歳以上70歳未満の高齢者は19名。すべてがOBで、仕事の内容など分かっているので対応はし易かったが、新規に採用となると考えてしまう。女性の現場は0。やはり難しいと思っている。

◎「外国人労働者の効果的活用」では、言葉の問題、会社への帰属意識の低さ、生活習慣の違いなどが挙げられる。しかし、最大の要因は“賃金”であろう。最近では、一人当たりのGDPが日本より高くなったアジア諸国がどんどん増えて来ている。それだけ日本より高い賃金を取る国が増えて来ている訳であり、まだ日本より低い国も、その潜在力(特に人口)を考えれば、やがて追いつき、追い越して行くことがはっきりしている。外国へ進出した企業が日本に帰ってくる例が増えて来ているのが何よりの証拠であろう。ひょっとしたら、そう遠くない時代には、日本からアジア諸国へ“出稼ぎ”に行かなければならないかも知れないと思う。

◎「徹底的な省人化・自動化対応」では、まず資金の問題が第一に出てくる。現在の製造工程から人一人減らすのにいくらまでなら投資出来るか？5年位の償却とランニングコストを計算したら、答えは出てくるだろう。AIは素晴らしい進化を続けている。車の自動運転しかり、チェス・将棋しかり、そして、とうとう囲碁の世界をも席卷し始めた。学習をして、より高度なレベルへと進んで行ける。技術に優れ、知識と経験が豊富で、常に前向きに取り組む日本人が“雇用”という“人”の問題で悩んでいるより、省人化・自動化に一歩も二歩も先んじて行くべきではないだろうか。そうした企画・開発・設計・製造を進めて行くことこそが世界における日本の差別化に繋がると思う。

しかし、各企業が個別に取り組むことにも限界がある。そこで、(ii)の「地域・行政で取り組むべきもの」である。更に厳しさを増す人手不足問題に対し、市内すべての企業のネットワークを構築し、大学・高校との密接な連携により、中身の濃い雇用対策を行っていかねばなりません。ちょうど、その取り組みに向けた第一歩を踏み出したところです。次号“ふいご”に雇用対策(Ⅱ)として掲載します。

— 閑話休題 —



青年部定時総会・懇親会開催

4月22日(金)正午より、組合研修センター2階の役員会議室にて、青年部定時総会が開催されました。今井理事長、小沢専務理事にご同席いただき、青年部会員合わせて13名の参加となりました。

決算総会及び予算総会とも上程された議案は滞りなく承認可決され、会長も(株)中部製作所の田中さんから三星工業(株)の岩井さんへと引き継がれました。新会長のご挨拶は下に載せてありますのでご一読下さい。

総会が無事終了したその夜に場所を岐阜の「宇を徳」に移し、19時より懇親会が行われました。岩井新会長、今井理事長の後、懇親会から参加した新規入会の共設機械精工の貝川さんに挨拶をいただきました。新入会員の紹介は次号に掲載予定です。そして田中さんに乾杯の挨拶をいただき、総会に引き続きご同席いただいた、今井理事長と小沢専務理事を囲い、おおいに盛り上がりました。

今後とも青年部活動にご理解とご協力の程よろしく願いいたします。

新会長のご挨拶



三星工業(株) 岩井 康志

この度、青年部会員の皆さまからご指名を受け、今年度の青年部会長を務めさせていただきます三星工業株式会社の岩井康志(いわい こうじ)と申します。

青年部は現在13名で活動しておりますが、近年の会員数の減少に伴いマンパワーと予算の両面において環境が年々厳しくなっており、過去に諸先輩方が築き上げてきた事業と同規模のものを実施することが今の青年部では出来なくなっております。

今後数年内にも青年部の会員数が1桁台まで減ることが予想されることから、昨年度も田中前会長のもと、我々青年部の将来について議論を重ねてきました。その中で出た答えのひとつとして、青年部はその活動を通じて後継者育成に繋がる貴重な存在であり、組合員各企業や組合にとっても我々青年部会員自身にとっても必要な存在だということです。青年部会則第4条にも、組合の一員として次代を担う人材の育成がハッキリと謳われています。このことから青年部は、組合の一員として、組合や組合員の経済的地位の向上に繋がる事業の企画・運営を通じて次代を担う後継者の育成に繋げていくことを目的に、青年部の魅力を内外に発信していく決意でございます。

その手始めとして本年度は、10月合同ゴルフの企画・設営、11月度月例会の企画・運営を青年部に任せ頂くことになりました。青年部らしい発想で、皆さまのご期待に添えるよう努力する所存でございます。まだ先の事業ではございますが、皆さまのご参加をお願い申し上げます。

また、近年飲食の回数が多いことでお叱りを受けることもございます。しかしながら、青年部の団結力の源泉であることと、情報収集や自身の経営の悩みを解決できる貴重な場であるということも事実です。青年部会員は貴重なお金と忙しい時間を使って集まる訳ですから、決して楽しいだけの飲み会にならないように、何かを持って帰れるようにメリハリをつけて活動していきますので、どうか暖かく見守ってくださいますようお願い申し上げます。

最後に、組合員各企業様にご在籍の次期経営者の方がいらっしゃいましたら、是非ともご紹介をお願いいたします。各企業様まで出向き、青年部の魅力を語らせて頂きます。また、本年度は、失敗に臆することなく色々なものにチャレンジして参りたいと思います。暴走してご迷惑をおかけすることも多々あると思いますが、何卒ご指導ご鞭撻の程よろしく願い申し上げます。青年部会長挨拶とさせていただきます。

1年間よろしく願いします。



挑戦がやる気、元気、健康の基

今の日本の平均寿命は男女ともに80歳を超え、そのうち、健康で活動的に暮らせる「健康寿命」との差は9～12年もあるらしい。人は誰でも健康に長生きしたいと思うものである。仕事をリタイアしてからはさらにそう思うようになった。

若い時から今まで様々な運動をしてきたが、6年ほど前からはもっぱら水泳にしぼって続けている。水の中では浮力が働くため、水に浮くことさえできれば、年齢や体重に関係なく続けられるのが良い。全身を伸ばし、バランスのとれた運動ができ、自分のペースで行えるのでゆったりリラックスできる。「一緒に大会に出てみないか」と友人に誘われ、マスターズ水泳に出場するようになってから40年ほどになる。マスターズ水泳とは「健康・友情・相互理解・競技」をモットーに水泳を楽しむもので、他の競技競泳との大きな違いは、5歳ごとに年齢区分されていることであり、10代から100歳代、水泳を始めたばかりの初心者から元オリンピック選手までと、幅広い層の選手が出場している。

水泳大会のスタート台に立つと、小学校の運動会のかけっこで味わった“ヨーイドン!”のドキドキ感を思い出す。今ではなかなか得られない緊張感が何とも素晴らしい。競技に出れば夢中で泳ぎ、その結果、着順とタイムが正確に出るので前の記録との比較ができる。年々、体力の低下とともに記録が伸びなくなるのが常識だが、自己新記録が出ればうれしさ倍増、「もっと上手になりたい」という向上心が生まれ、ポジティブな気持ちになれる。

そんな時、20～30年来の仲間と400m(100m×4人)メドレーリレーにエントリーすることになり、日本新記録6分05秒96(280歳～319歳区分)の突破に挑戦することとなった。愛媛県松山会場(2016.4.2～4.3)で記録に挑戦できる境遇に感謝し、「一所懸命やって勝つこと」の次に素晴らしいのは「負けても一生懸命やること」と心の中で唱えレースに挑んだ。

(背泳ぎ 田代操 68歳⇒平泳ぎ 下村尚之 74歳⇒バタフライ 竹下龍彦 74歳⇒クロール 松波俊宣 74歳)

仲間の最後の泳ぎが終わり、電光板を見ると6分を切っている。結果は、なんと4人の練習の成果が報われ、5分55秒41の大幅更新で日本新記録を樹立！世界ランキングTop10入り、ドイツチームの5位に次いで6位となった。

「やったあ！」

一人ではなし得なかったことも、仲間と一緒に達成できた最高の気分で、金メダルを手にした。

これまで、「仕事が忙しいから暇がない」「退職して時間ができてからやるわ」こんなセリフを何人かの先輩から聞いたことがある。トライできる状況になっても、以前と変わらず時間を上手く使いこなせていないことも多い。リタイアしてから「どう生きるか」、登山同様、人生も下りが難しい。

自分で限界を決めず、目標に向かってChallengeする。そしてそれを楽しんで前に進むこと。何か1つ好きな事を極めるためには、高い目標を掲げ、まず一步をふみ出す。そして続けること…

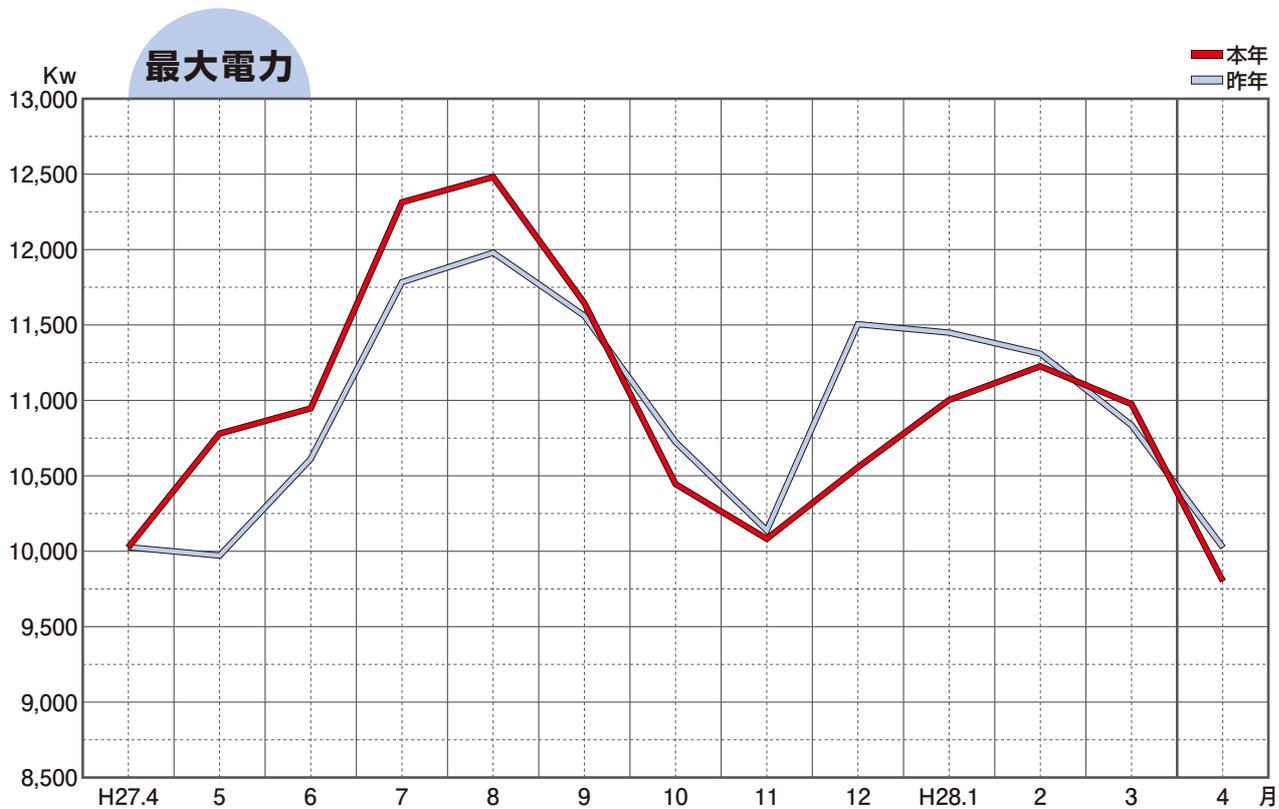
好きに生きることを探るのが終活で、残りの人生はご褒美の時間である。

元組合員 株式会社 ダイニチ 下村尚之 ひさゆき



お知らせ

平成27年度年間電力使用状況



行事予定

2016 **6** June

1 水	一般健康診断(～8日)	16 木	
2 木	一般健康診断(女性日)	17 金	
3 金	献血(12:30～16:00)	18 土	『組合休日』
4 土	『組合休日』	19 日	
5 日		20 月	
6 月		21 火	
7 火	H29年3月新規学校卒業者求人取扱説明会 ぎふIT・ものづくり協議会総会・講演会	22 水	岐阜県経営者協会定時総会
8 水		23 木	
9 木	岐阜県中小企業団体中央会通常総会	24 金	青年部M-Tech視察(～25日)
10 金		25 土	『組合休日』
11 土	『組合休日』	26 日	
12 日	金属団地遠征G(～13日)	27 月	
13 月		28 火	各務原市商工会議所通常総会
14 火		29 水	
15 水		30 木	岐阜県機械金属協会通常総会

岐阜公共職業安定所より

『平成29年3月新規学校卒業者求人取扱説明会開催』のお知らせ

日時：平成28年6月7日(火)

第1回目／10:00～12:00 第2回目／14:00～16:00 ※受付は30分前より行います。

場所：長良川国際会議場 大会議室 岐阜市長良福光2695-2

※国際会議場西「リバーサイドパーク(無料)」は閉鎖になりました。

内容：平成29年3月新規学卒者の求人取扱い等について
公正な採用選考について(人権啓発推進員研修)
その他

〈お問い合わせ先〉

岐阜新卒応援ハローワーク

高井 TEL(058)264-7550

■ 4月度金属団地ゴルフ会

4月23日 岐阜カンツリー倶楽部

優勝 今井哲夫(今井航空機器工業) 2位 森田吉久(テクノ共栄) 3位 鈴木純一(豊菱製作所)

▶ 編集後記 ◀

500号記念誌の担当を任せて頂き、皆様のご協力で発行させることが出来ました、毎月発行で41年と8ヶ月、長い様な短い様な年月です。

以前は青年部が担当をしていた時期がありました関係で、編集発行責任者で私の名前が団地ニュースに載りましたのは、私が青年部部長をしておりました81号(1981年5月20日発行)から1年間、その間で一番思い出される内容は、お祭り広場開催など組合創立20周年記念事業です。金属団地ニュースも編集委員会の方針などで、時代ごとに内容、レイアウト変更、表紙はカラーへと変貌をして、最近はおールカラーの号も出る様になりました。

このまま発行が続き1000号を見たいというのが私の夢ですが、自分の年に41年8ヶ月を足しますと100歳を越します、昨今の医療技術でいけば不可能では無いかと思っております。

400号記念誌は2008年1月8日の新年号、500号記念誌は今回の総会号となりました。このまま行けば、1000号記念誌は2058年1月7日の新年互礼会に発刊予定です。500号記念誌は多くの皆さんにお渡しする総会号に当たりましたので、編集委員会で趣向を凝らし、懐かしく、面白くお読み頂けるものに出来たと思います。

編集委員会の委員長、委員、組合職員の皆さんには大変お世話になり、紙面をお借りして御礼申し上げます。

500号記念誌担当 和田 勝博

▶ ご挨拶 ◀

昭和56年1月4日、(株)鷓飼プレス工業に入社。この5月で35年と5ヶ月、月数にすると425ヶ月になりました。編集委員会に配属されてから、途中しばらく抜けていた期間を引いても、350号分は携わったかな・・・と思うと感慨ひとしおです。

私は、「達成感」という言葉が好きです。歴代の組合役員、先輩諸兄、同世代の仲間、後輩達、そして組合職員の皆さんの大変なご協力の下、《500号》を達成させて頂くことが出来ました。心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

もちろん、500号で打ち切りではなく、あくまでも通過点に過ぎません。1000号でも2000号でも「金属団地協同組合」が続く限り発行して欲しいと願っています。

今回、表・裏表紙、ファイルなども新しくしました。50冊綴じで、長く手元に置き、いつまでも読んで頂けるように、との思いをこめました。また、こうした広報誌で500号を超えるのは例が無いのでは、とギネスへの問い合わせを試みようかとも思っています。



「金属団地ニュース」は、会員の皆さんの情報交換誌です。これまでは、どちらかと言えば、団地の活動についての結果報告書のような内容でした。これからは、会員企業に自社のPRをどんどんして頂き、まずは団地内で、そして対外的にも発信して行き、大きな効果を生み出していければ最高だと、考えています。

今後とも、ご支援・ご協力をお願いし、ご挨拶とさせていただきます。

金属団地ニュース編集委員長 柳原 幸一

<http://www.g-mecca.jp>

G-MECCA

GIFU METAL ENGINEERING COMMUNITY COOPERATIVE ASSOCIATION

